

# 委員会だより

<11月3日(日) 12名出席>

## 【1】財務報告：10月度決算報告(甲斐さん)一委員会了承。

- ・一般会計：10月度収支 = +¥93,620 次月繰越金 = ¥899,838
- ・月定献金年間予算¥4,300,000に対し10月迄の累計実績¥3,278,200で、今年後半若干の伸び悩み傾向。
- ・伊藤恵子様ご親族より¥100,000、山崎神父様より¥91,000、特別献金を頂いた。
- ・建設会計：10月に、下水接続工事、西側土間工事で合計¥959,095の支出あり。

## 【2】お知らせコーナー：

- (1)バザーを10/27(日)に挙行、無事終了。  
・清水委員長より、協力頂いた信徒各位に謝辞があった。
- ・今回のバザー収益としては、超概算で約30万円強の見込み。詳細計算確認後、甲斐さんより報告。(焼きソバ肉は、武田さんより寄付頂いた)
- (2)七五三のお祝い：11/3現在、該当者申込は3名。千歳飴は、子供さん全員に用意する。
- (3)第6回「聖歌の集い」：準備委員会が11/3に山手教会で開催され、石井さんが出席される。
- (4)第5回横浜教区福祉委員会主催セミナーが、11/16に横浜カトリックセンターで開催：中和田教会より、2名分申し込んである。
- (5)主のご降誕：「赦しの秘跡」(鶴飼神父様ご指導)の日程が12/8に変更された。ご注意ください。
- (6)お聖堂のパイプ椅子の錆防止対策：  
11/17に壮年会にて、軟質透明ビニールを取り付ける。その折り、緩んでいるネジも締め付ける。
- (7)中田地区中心で行われた住所表示変更：  
教会も掌握必要な為、変更届用紙を作成。該当各位の届出をお願いします。(用紙は事務室常備)

## 【3】お話し合いコーナー：

- (1)97年度年間行事表：

### お知らせ

#### >財務委員からのお願い

今年もあと一ヶ月を残すのみとなりましたが、平成8年度の献金については、会計処理の都合から、今月中に完納いただけますようお願いいたします。(財務委員 甲斐 至信)

#### >大掃除：12月21日(土) 午前10時

#### >クリスマスの御ミサ

- ◇ 24日：夜8時 御ミサ後パーティー
- ◇ 25日：朝10時

#### >元日の御ミサ：朝10時のみ

#### >住所表示変更

該当の方は事務所に用紙がありますので、お届け下さい。

「成人の日」に教会として何かやろうとの提案あり。1/12に実施することとし、井上さん中心に検討。(若い人に企画してもらう、パーティ形式)

- (2)床貼り残り部分(事務所、会議室、台所)、お聖堂屋根葺き替え、の2点で見積依頼中。本件は、教区から資金借入れが必要なることもあり、97/1月の信徒総会に諮っていく。
- (3)クリスマス・パーティ(12/24 8:00pmのごミサ後)の対応、段取り：婦人会で検討頂くこととした。

## 壮年会だより

<11月17日(日)>

11月17日は聖堂の椅子の錆が床に着かないよう、軟質透明ビニールを取り付ける作業を行いました。

## 婦人会だより

<11月17日(日) 29名出席>

- ・委員会の報告
  - ・皆様の御協力によりバザーも無事終わりました例年通りバザーの収益金から婦人会として寄付をする事にしました。  
横浜いのちの電話 1万円  
かにた後援会 1万円  
フマニタス救済事業 1万円  
カリタスジャパン 1万円  
また残品の衣類をかにたに送ります。
  - ・神父様へのクリスマスプレゼントとして、図書券を差し上げることになりました。
  - ・次年度の役員を、各地区で12月の例会迄に決めておくようにして下さい。
  - ・小野さんより一粒会の報告がありました。
  - ・トラピストクッキーとお茶を注文しますので、御希望の方はお申し込み下さい。
  - ・バザーの反省会をしました。皆様の御意見は来年度のバザーに役立てたいと思います。
- 次回例会 12月15日(日) 次回当番はB地区です。



## 今月の予定

委員会	12月1日
赦しの秘跡	12月8日
主の降誕	12月25日
サロン	12月22日
レジオ	12月13,20,27日



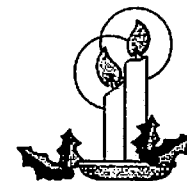
第220回

カトリック中和田教会  
広報委員会発行  
泉区中田北1丁目9-1  
Tel. (045) 803-6141  
1996年12月7日



## 模索の補冊 ④

山崎 正俊



◎ 何んでも簡単に引き受けるのはいいが、間に合ってしまうからといっても、その分を越えて過労気味になるのだと、よく云われていたのだそう。ひとりで背負いこみすぎるようだといまシメられ続けているのは感じていても、どれを断ることができるかを即座にきめられるぐらいなら、いまの役目など、とてもえらぶことはできませんでしたよ、と嘆いてはみせられる。それはそうでしょう。

——そう忠告しておられる御本人でさえ、私どもの願いを、あまりお考えにもならず引き受けられるような、軽率の権化とも云えそうな(これは失礼)。そうです、神様への信頼心の確かなお方のことですから、そのためにこそ、私どもは息をついておれるのです。それは「時の氏神様」より以上の暖かさに溢れたお方であるのですから。

◎ 健康には特に気を付けてあげなければならぬのだから、あまりの事をたのみすぎるなよと釘をさされていたので、云い出しにくかったのですが、前任のお方が、三十数年の間もお世話くださったのですから、これから後も、よろしくお引き受けいただけないでしょうかなどと、ひたすら辞を低くしたつもりでの手紙と、そのことで説明をするためにお会いしてくださいとたのんでいた人の説得に、ほとんどふたつ返事での御承認の旨のお便りであると信じてしまうことができ、これほどに有難い内容のものをいただけるようなことは、これからはないであろうなどと思い込んだので、それ以来の毎日の御ミサに、必ず思い出すことにきめてしまったのは、似たようなことがもう一度あって、三度目も四度目も期待しなければならぬとキモに銘じてしまい、私の「祈念のうち」に忘れてはならないものになっている。どうもあいすまぬなりゆきでも、あれはまさに、奇跡です。

——これは、なんとしたことでしょう。司教様御自身にとって、その予定された一年さきの日が、どのような日であるかを(健康である限りは、抜かすことの決して出来ない日であることを)、きれいさっぱりと、お忘れになっておられたのです。「さいわいなる哉。聖なる忘却よ」と、ずうずうしくも、感謝の祈りなどを、どれだけ誦したことでしよう。——その日が近付いた刻、突然のこと、気がついたのです。もう、どうにもなりません。そのまま、その日になるのを、手をつかねたまま待っているわけには、ゆくはずがありはしません。東京の委員たちは、気がついていないのです。私は、あわてました。そして、すぐに、京都の山科の御自宅に電話をしました。(私は知らなかったのです。その人がいつからそのようにしていたのか。それまでの職場を引退することは聞いていたのですが、残りの年月をそのようにしてお捧げするつもりで、司教館に勤めていたのです。神様はいまのことを予期して、この人をそこに送り込み、このウツケ者である私を援けてくださったのか)。——司教様は、私などはこのとき、役にもたないことを察しておられ、実は、簡単に事はすんでいたのです。——乗物は正確に動くはずですから、それに間に合いさえすれば、それですべては大完了となっており、その朝、倉敷から京都へと移動できることがきめられていたのです。その「聖霊降臨の大祝日」は、すべてが、無事でした。——あの日の司教様は、だから、特別のことは何も云われません。すべては、しつらえられたエスカレーターに乗せられたかのように、順調に進行してゆき、私もいつものようにお土産を選んでおり、別行動の広島旅行組も、楽しげなはしゃぎようで、来年の大会を期待して、同室者のイビキなど、話題のはしにもありません。こんどは、秋田です。

## 聖地を巡礼しました (9)

# ゲッセマネの園と苦悶の教会

甲斐 至信

エルサレムの東、ケデロン谷を隔てたオリブ山の西山麓にゲッセマネの園がある。園の周辺には、苦悶の教会、主の涙の教会、昇天教会などイエスの最後をしのぶ教会とマグダラのマリアの教会などがあり、苦悶の教会の祭壇前には、イエスが「私は死ぬばかりに悲しい」と祈られた大きな岩の跡がある。

イエスがいつも祈りの場所とされたゲッセマネの園には、イエスの時代のものと言われるオリブの老木が多数保存され訪れる巡礼者を魅了している。ゲッセマネとは油しぼり場の意味で、オリブ山の麓には昔からオリブの油をしぼる場所があまたあり、それがこのあたり一帯の地名となった。

晩餐が終わり、イエスは自分のもとに残った弟子たちを連れてエルサレムの城壁を出て、ゲッセマネのオリブ林に行かれた。そのオリブ林が、エルサレムに来てからの一同の寝場所となっていたようだ。既に夜はかなりふけていた。夜空に黒々とそびえるエルサレムの城壁を見ながら、イエスは自分を捕らえる者がまもなく姿を見せることを予感した。ユダが何を行なうかを予感したのはイエスだけだった。弟子達は、それに続く最悪の事態についてまったく予想しなかった。何も知らぬ弟子たちはいつものように、オリブの木の下で眠りはじめた。

イエスは「わたしが向こうへ行って祈っている間ここに座っていなさい。」と言われたペトロとゼベダイの子二人を伴われて来たが、そのとき悲しみ悶え始められた。そして彼らに言われた。「わたしは、死ぬばかりに悲しい。ここを離れず私と共に目を覚ましていなさい。」

少し進んでいって、うつ伏せになり祈って言われた。「父よ、出来ることなら、この杯を私から過ぎ去らせて下さい。しかし、私の願い通りではなく、御心のままに。」

この時ユダは何をしていたか。ユダヤ衆議会の議長であり大祭司であるカヤパに、イエスと決別したことを訴え出していた。

遠藤周作は最後の晩餐の場でのユダについて、次のように語っている。「ユダはイエスを地上的な救世主にしようとするグループの代表者だったと思われる。イエスは愛の神と神の愛とを説いたが、ユダはこの現実には神の沈黙しかないといい、苛酷な現実で役立ち、効果のあることがまず必要と考えたのであるが最後の晩餐でもイエスは、ユダのこの現実的な考えを拒否した。自分を地上の救世主として反ローマ運動の象徴にしようとする民衆の期待も退けた。つまりユダ的な考え方をまったく否定したのである。

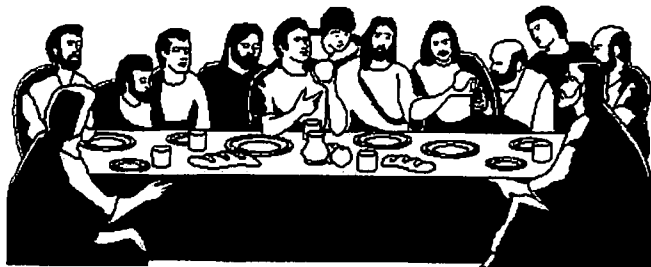
おそらく最後の晩餐では、ユダとイエスとの間に論争があったであろう。そしてイエスは、ユダがカヤパと結託することを予感したに違いない。イエスは『しようとしていることを、今すぐ、しなさい』と彼に言われた。ユダ達は晩餐の席から退出していった。」

ユダはカヤパの指図に従ってゲッセマネまで、祭司長の遣わした兵隊や大勢の群衆を案内した。ということは、オリブ林がかなり広く、イエスたちの居所を見付けるのが、難しかったからだろう。血の争いのような汗を流し、差しせまった運命の予感に苦しんでいたイエスは、捕らえにきた人々の足音とその手にもった松明の動きを見た。

眠りこけていた弟子たちも目を覚ました。オリブ畑に侵入した大勢の群衆の中からユダが姿をあらわした。「先生こんばんわ」と言ってイエスに接吻した。

イエスは「友よ、しようとしていることをするがよい」と言われた。すると人々は進みより、イエスに手をかけて捕らえた。

弟子たちは思いがけぬ出来事にオリブ林のなかを逃げ、一人の少年は肌にとった布を投げ捨て、裸のまま逃走したという。ペトロだけが短刀を抜き兵士の耳を切り落としたが、イエスはそれをとめた。そこでイエスは彼らに言った「ま

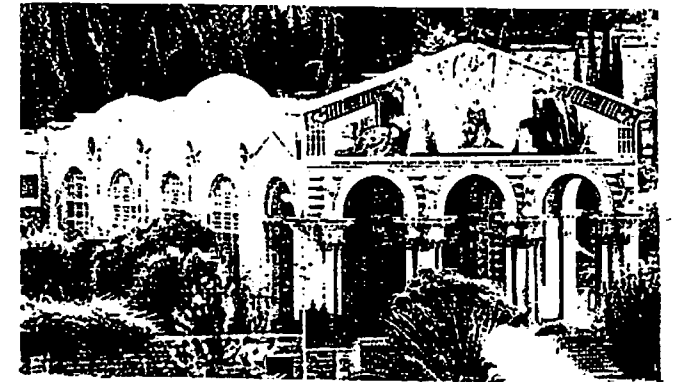


るで強盗にでも向かうように、剣や棒を持って捕らえに来たのか。私は毎日、神殿で一緒にいて教えていたのに、あなたたちはわたしを捕らえなかった。しかし、これは聖書の言葉が実現するためである。」

こうしてイエスは捕らえられ、弟子たちの去ってしまったゲッセマネから彼は人々に囲まれ、ただ一人エルサレムの城壁に向かって連行されていった。

最高法院での裁判で祭司長たちと最高法院の全員は、イエスを死刑にしようとして不利な偽証をもとめた。偽証人は何人も現われたが、証拠は得られなかった。最後に二人の者が来て、「この男は、『神の神殿を打ち壊し三日あれば建てる事が出来る』と言いました」と告げた。イエスは神殿を侮辱したと告発されたのだ。

イエスは神殿を侮辱したのではなかった。神殿のみを絶対視する従来のユダヤ教に反対したのであった。神殿より高いもの、それは愛であった。神殿礼拝よりもっと大切なのは愛であることを伝えたかったのである。



苦悶の教会

## 青少年コーナー



### オルガンを弾きながら

大宮 桂子



教会の聖歌の伴奏のお手伝いを引き受けてから、早十年以上が経過しました。(と、こう書いてから私自身もびっくりしています。)現在は、岩淵さん、石川さん、森田さんの四人の輪番で、毎日曜日の九時のごミサのオルガン伴奏をしています。

自分ひとりで歌を歌ったり、ピアノを弾いたりすることも好きですが、それ以上に、合唱をしてハーモニーを重ねたり、人の声や楽器に自分の音を合わせてみたりすることに魅力を感じます。小学校の教師という職業柄、子どもたちの歌声の伴奏をする機会も多いのですが、百のことは並べるよりも、たった一回一緒に演奏したことで、心が通い合うということも度々経験しました。(子どもたちも、音楽というものを介して、実に素直に自分の気持ちを表してくれます。)

きっと、多くの方々にご迷惑をかけているのだろうなと思いながら、それでも、自分のもつ楽しみに過ぎない小さなものが教会の中で活かせることに、大きな喜びを感じています。

これからもどうぞよろしくお願いいたします。

## バザー収支報告

御協力有り難うございました。下記の通りまとまりましたので、ご報告致します。(バザー総合会計)

費目	収支	備考
衣類等	181,530	手芸、雑貨、古着
婦人会食券	71,059	カレー、おでん、他
壮年会食券	60,053	焼き鳥、焼きそば、他
食品販売	20,800	しいたけ、お茶、他
その他販売	33,410	花、ピンゴ
支出	-43,749	準備費、器具/食器代
その他収支	-2,000	祝金、寄付、他
収支合計	321,103	

## ミサ当番表

(96年12月、97年1月)

月/日	主日	朗読、奉納	オルガン
12/ 8	待降節第二主日	青年会	石川
12/15	待降節第三主日	婦人会B地区	森田
12/22	待降節第四主日	小野	大宮
12/24	主の降誕		岩淵
12/29	聖家族	婦人会B地区	石川
1/ 5	主の公現	上野	森田
1/12	主の洗礼	青年会	大宮
1/19	年間第二主日	婦人会C地区	岩淵
1/26	年間第三主日	石井	石川

※当番の方は10分前には集合して下さい。  
※ご都合の悪い方は典礼委員までお申し出下さい。  
(萩原: TEL 802-6258)